



# 世界のピアノレッスン

中村 菊子

日本のピアノ教育界において、永年君臨し続けているバイエル、ブルグミュラー、ツェルニー。現在活躍中の日本の多くの音楽家は、これらの教材を順番にマスターしていくというレッスンを受けてきましたし、そのレッスン法は現在もわが国において最もポピュラーなものとして残っています。

しかし世界に目を向けてみると、このようなレッスン方法は他の国には例を見ないもののように、改めて日本のピアノ教育の特異性に気付きます。

では今、世界ではどんなピアノレッスンが行われているのでしょうか？ ジュリアード音楽院を卒業後、永年アメリカのピアノ教育界で活躍され、在米中の一九七五年からアメリカのピアノメソッドを多数日本にて出版、紹介されている中村菊子先生にお聞きしました。

## ● 四期別のレッスン

ニューヨークから大事に持って帰ってきた一九七三年〜八九年までの子供のコンクールの記録を出してみた。これは全米音楽指導者協会の大きなコンクールで、下限がブレ・エレメンタリーという4〜6才の級で、上限は大学生だ。

そのコンクールに、私は毎年十人前後の生徒を出場させていたが、課題は音楽史の四期―バロック期、古典期、ロマン期、近・現代―から生徒が好きな曲を1曲ずつ選んで、合計4曲弾けばよかった。一九七三年の審査表を見ると私の生徒にブレ・エレメンタリー級で①バッハ『メヌエット』②ハイドン『スケルツォ』③シューマン『兵隊さんのマーチ』④ウィラールロボス『ガリポリディがミサに行っ

た』を弾いた4才児と、①ヘンデル『アントレ』②ベートーヴェン『ロシアの踊り』③グリーグ『ワルツ』④バーシケッティ『バレード』から『マーチ』を弾いた6才児がいた。ちなみにインターミディエート(中級)には①バッハ『平均律』『第一巻 八短調』②ベートーヴェン『ソナタ』『アンペスト 第一楽章』③ショパン『スケルツォ Op.33』④コープランド『猫と鼠』を弾いた12才児がいた。

欧米では幼児からこのように四期の曲を同時に学ぶレッスンは行なわれている。私はちょうど今から四十年前の一九五九年にジュリアード音楽院へ行ったが、その時の入学試験も四期から4曲を弾かされ、この期別の学習方法は卒業するまで続いた。そして、ピアノリストの登壇の『チャイコフスキー『コンクール』



など大きな国際コンクールも同じ方法で課題曲が出されるのだ。

おかげで私はそれまで知らなかった多くの曲を知ることになったが、以後、特に現代曲はカブレフスキー、シヨスタコーヴィッチ、ハチャトウリアン、バルトーク、プロコフィエフなどの他に、プーランク、トゥリナー、ミヨー、チエレブニン、カウエル、イベル、ヒナスアラ、ヴィラールロボス、シェーンベルクらの曲を積極的に取り入れるようになった。

## ● 日本のレッスンは

### 古典期志向

例えば私が日本で受けた教育は、クレメンティーなど古典期のソナチネを弾くのを目的に書かれた「バイエルピアノ教

本」で導入され、ソナチネとソナタで古典期の基礎を固めてからロマン期のショパンに進み、ずっと後でドビュッシーなど近・現代を習うという幅の狭いレッスンだった。そして「ツェルニー」もたくさん練習させられた。

しかし、ジュリアードの教授は「ツェルニーはいくら練習してもツェルニーが上手くなるだけで時間の無駄です。その代わりに1曲でも多く本物の作曲家の曲を弾いたほうが音楽性もテクニクもずっと豊かになります。」と言っておられた。これは真実で、実際に欧米では私たちがのように古典志向でレッスンを始める国はない。なぜかと言うと、日本式に『バイエル』『ブルグミュラー』『ソナチネ』で勉強を進めると、子供の耳がドソミソ調と『I・V・Vの機能と声』だけで固まってしまい、現代曲の『子供のバルトーク』や『子供のプロコフィエフ』を弾くのに非常に苦労する生徒を育ててしまっからだ。

## ●ブルグミュラーも必要なし

加えて「ブルグミュラー」は一八〇六年生まれで、ロマン期を生きた作曲家だが、彼の作曲技法は古典期の域を出ておらず、その作品は「I・V・Vの機能と声」に「感傷的な旋律」を載せただけなので、まったく勉強する意味がない。

一八〇六年生まれのブルグミュラー



# 10月の新刊&おすすめ本

読んでから弾くか弾いてから読むか

●全音楽譜出版社

●NHK 出版

## 葉っぱのフレディーいのちの旅



いつかの新聞紙上で「葉っぱのフレディー」の読者からの感想記が一面を使って掲載されていました。多くは読み進むうちにいつしか「生と死」を見つめる自分に気づく、といった内容で「輪廻転生」という仏教観がこの本のテーマであるような……

この本が一躍知られるようになったのは、CD(東芝EMI)が発売されてからで、朗読:森重久彌、音楽:東儀秀樹という奇抜さも「なにコレ?」という興味につながった一因かもしれません。

さて、楽譜です。にわかに「フレディー」の楽譜は出ていないのかというファンからの問い合わせがあちこちから湧

出してきました。その声に応えたのが、

- ☆《葉っぱのフレディーいのちの旅 - 7つのパラフレーズ》(Pソロ・連弾) 1,300円
- ☆《葉っぱのフレディーいのちの旅 - エンディングテーマ「生きてきたぼくたちへ」》600円

●全音楽譜出版社 甲田潤 編曲  
日野秀夫 作詞

●全音楽譜出版社

## 少年少女(女声)合唱組曲 「展覧会の絵」

ムソルグスキー「展覧会の絵」を合唱(日本語)で!!

誰もが知っている名曲を歌う、ウケます!!  
(10月中旬発売 1,600円)

●共同楽譜出版社 岡井奈美子 著  
読譜力をつけるソル・大譜表バッチリカード付

## ふよみなんてへつちやら2

ピアノを続けるための「その1」!  
(10月中旬発売 1,500円)

●音楽之友社  
ウィーン原典版 新刊2点!

## No.222 シューベルト ピアノソナタ全集 3

第17番 D850から第21番 D960までの5曲を収載。  
校訂・運指:マルティナー・ティリモ (10月下旬発売 4,800円)

## No.118b ヘンデル クラヴィーア曲集 1-b

通称<第2集>からの4曲ほか全10曲を収載。  
校訂・運指:ピーター・ウィリアムズ (発売中 2,600円)

※表示価格は税抜き価格となっております。  
また、価格・発売時期は変更する場合がございます。予めご了承下さいませ。

NHK 趣味悠々 いますぐ始める

## お父さんのためのピアノ講座

今回のNHK「趣味悠々」は 齋藤雅広の楽しくレッスン!

放送時間 '99. 10月~12月

水曜日 PM9:35~10:00

木曜日 PM0:00~0:25(再放送)

大人になるにつれ、楽器とは無縁の生活になっていたな…… そんな弦音がふと聞こえてきそうな番組が始まります。

「キーボード」で有名? な齋藤雅広さんを講師に迎え「ジムノペティ」や「ラ・ラ・ルー」他2曲を13週にわたり、お父さんが生徒になって進めていきます。1人でも2人でも、この番組を見て「ワシらもいっちょやってみるべか」となるか、番組もさることながら、<お楽しみ>に!

(テキスト好評発売中 1,000円)

●春秋社

伊能美智子 著

## ピアノピース2週間マスター

続刊をご紹介します。

- ◎モーツァルト トルコ行進曲 (中級 700円)
  - ◎J.S.バッハ G線上のアリア (中級 600円)
  - ◎サティ おまえが欲しい (中級上 700円)
  - ◎ショパン 別れのワルツ (中級上 700円)
  - ◎ショパン ワルツ (中級上 700円)
- このシリーズは大人の独習者、またはその指導テキストとしてお使いになれます。  
(以上10月中旬発売)

## 新・ピアノ学習の基礎

子どものピアノに母親の理解を、をテーマにレッスンのノウハウを書き下ろした。前著を大幅改訂。

(10月中旬発売 1,900円)

●ヤマハミュージックメディア

月刊Pianoブックスシリーズ ぴあのクリニック

## ピアノの悩みを解決する本

Vol. 3 進路・就職編

音大受験のこと、卒業してからのこと等、生徒の相談にも的確にアドバイスします。

(10月上旬発売 1,300円)

●音楽之友社

ムジカノーヴァ別冊 ピアノスナーのための

## コード奏法完全マスターBOOK

(11/2発売 1,800円)